

寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の“いま”を伝える情報誌

vol.26

巻頭インタビュー

天台宗総本山比叡山延暦寺 執行

小堀 光實

山王総本宮日吉大社 宮司

馬淵 直樹

特集

世界が大旅行時代に突入している
今こそ、動きだそう

“テーマ”で考える
寺社観光





02 巻頭インタビュー
天台宗総本山比叡山延暦寺 執行
小堀 光實
山王総本宮日吉大社 宮司
馬淵 直樹
日本人の心をいかに呼び覚まし、後世につなげていけるか。

08 新風
NEWS 1/ 薬師寺慈恩殿に細川護熙氏が障壁画「東と西の癒合」を奉納
NEWS 2/ 境内で車中泊が可能な北海道「川上キャンピングカー神社」
NEWS 3/ あめ玉を7分間舐める京都・妙心寺退蔵院「ひと粒の禅」
10 動静
NEWS 1/ 「寺泊」が今後一年の重点施策として政府の行動計画や観光白書に登場
NEWS 2/ 京都市内の各警察署が宗教施設と災害時協定を結ぶ

11 未来考創
社寺観光と訪日台湾人
公益財団法人日本台湾交流協会 台北事務所代表/沼田幹夫

12 特集
世界が大旅行時代に突入している今こそ、動きだそう

“テーマ”で考える 寺社観光

- 14 事例1/ 寺とつながるジャム店がまちを元気にしていく
浄土真宗本願寺派莊嚴寺、瀬戸内ジャムズガーデン(山口県)
- 16 事例2/ サイクリストの集う神社が観光開発を先導する
天津神明宮(千葉県)
- 18 事例3/ 住職たちのアイデアで生まれ、地域の“場”に成長した芸術祭
oterart金澤(石川県)
- 20 ツーリズムの現状と寺社の可能性を専門家に聞く
公益財団法人日本交通公社理事/塩谷英生

伝統を未来へ～From the Past to the Future～

- 22 超宗派の法話グランプリを企画し、僧侶が学ぶ場を設ける
真言宗須磨寺派 大本山須磨寺 小池陽人
- 23 おみくじに生きる日本文化の素晴らしさを、翻訳で広める
株式会社シープロジェクト 原口昭一

うちのお宝

- 24 泉龍山桃巖寺「日本一の木魚」(愛知県)
- 25 浅草富士浅間神社「麦藁蛇」(東京都)
- 26 テラハクレポート/真言宗御室派 安芸国分寺(広島県)

マンション



商業施設



賃貸住宅
「シャームゾン」



積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け
住宅



クリニック



土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャームゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 西日本特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。

0120-131-470

西日本特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅
「シャームゾン」総合カタログ



積水ハウス西日本特建支店 実例集
「Best Solutions」

天台宗総本山 比叡山延暦寺 執行

小堀 光實

こぼり
こうじつ



小堀 光實
昭和28年大津市生まれ。昭和51年大正大学仏教学部卒業。比叡山延暦寺で数々の要職を歴任し、平成13年天台宗務庁参務教学部長、平成21年「一宗功勞表彰」(住職勤務30年)。平成26年6月延暦寺執行に就任。



馬淵 直樹
昭和28年神戸市生まれ。皇學館大学卒業後、神社本庁に勤務。長田神社、滋賀県神社庁参事、皇學館大学神職養成室長などを経て、平成20年全国3800社の日吉・日枝・山王神社の総本宮、日吉大社宮司に就任。

山王総本宮 日吉大社 宮司

馬淵 直樹

まぶち
なおき

■古来、比叡山は山岳信仰の聖地であり、平安京の鬼門に位置する王城鎮護の山であった。その信仰の中心となったのが、山麓の日吉大社と山上の比叡山延暦寺である。日吉大社は、全国の日吉神社・日枝神社・山王神社の総本宮。比叡山延暦寺は日本天台宗の総本山であり、日本仏教の総本山として多くの名僧や高僧を輩出してきた歴史がある。

戦国時代、織田信長の焼き討ちという惨事に見舞われながらも、豊臣・徳川の代に再興。明治の神仏分離を乗り越え、比叡山は再び神仏和合の山となった。

令和3年の「伝教大師1200年大遠忌」というメモリアルイヤーを間近に控え、比叡山は過去とどのように向き合い、新たな時代をいかに歩もうとしているのか。

日吉大社の馬淵宮司と延暦寺の小堀執行に、比叡山の未来と寺社観光の可能性について話を伺った。

インタビュー・構成／吉田輝子

千日回峰行者が祈る姿に、
「神職と僧侶の本来の姿」を
見たような気がした。
それは私にとって、
大変な衝撃でした。

——馬淵

延暦寺と日吉大社は 一体の関係

——延暦寺を開いた伝教大師は、日吉の神々を天台宗の護法神とし、比叡山は古くから神仏習合の山として栄えたと伺っております。延暦寺と日吉大社の結びつきについてお聞かせください。

小堀 比叡山延暦寺の伝統と仏法は、日吉大社の神様によって守られてきました。伝教大師最澄様は、ご両親が日吉の神様に祈願して授かった日吉の申し子だという言い伝えもあります。その意味でも、日吉の神様は延暦寺にとって大恩神なのです。

馬淵 私は日吉大社の宮司を仰せつかって10年になりますが、延暦寺と日吉大社は一体の関係だと、日々実感しております。4月の山王祭では、延暦寺の天台座主さん自ら、五色の奉幣や神前読経をしていただきました。

た。延暦寺と日吉大社とがともに五穀豊穡と日本国民の繁栄・安寧を祈る、その祈りの姿をこれからもずっと続けていきたいと思っています。

——毎年5月26日の日吉大社の山王

礼拝講でも、延暦寺の僧侶により神前で法華八講が行われます。明治の神仏分離を経験したにもかかわらず、なぜ比叡山では、今も神仏合同の行事が続けられているのでしょうか。

小堀 延暦寺を守護する地主神は日吉大社さんであり、両者を分かちことはできません。過去には比叡山も神仏分離という試練を経験しましたが、我々は密かに日吉の神様を大切にしてきました。我々が仏事を勤める際には日吉の神様をお迎えし、法要をお守りいただくと同時に、喜びを共にしていただきます。日吉の神様は延暦寺にとって大切な神様であり、坂本生まれの私自身にとっても大変親しみのある神様なのです。

馬淵 私は神社本庁に15年勤め、神仏分離の基盤となった国学や復古神道に基づく考え方を学んできました。『古事記』では天地開闢にあたり、宇摩志阿斯訶備比古遲神が現れます。国土が今まさにでき上がろうとする時、この神様が葦の芽のようにスツと現れた。これが神道の原点であり、日本人は千年以上前から神様というものを意識してきたわけです。

こうした神様信仰は常に底流にあったものの、仏教伝来によって日本人の心は深められ、延暦寺と日吉大社はまさに一体となって信仰を伝えてきました。ところが、明治に入ると神仏分離が行われ、さらには廃仏毀釈まで進んでしまった。日吉のお社に祀られていた鏡板に仏像や神像を彫った懸仏も、全て取り払われてしまいました。これは不幸な歴史であったといわざるをえません。

小堀 奈良時代の延暦寺創建以来、政治的背景によって先人が苦勞されたことは、忘れてはならないと思います。天台宗寺院は全国3000か寺といわれますが、山奥にある寺の多くは、本堂の後ろに日吉の神様を祀ったお社を構えているのです。明治の激動を乗り越え、後世に信仰を伝えた方々に、心から敬意を表したいと思います。

馬淵 私は、日吉大社にとっての大人は、相応和尚と天海僧正のお二方だと思っております。元々は小さなお社だったこの神社を、平安時代に立派な社殿に建て替えてくださったのが、千日回峰行を創始された相応和尚でした。その後、信長の焼き討ちで灰燼に帰した比叡山の復興

に力を尽くされたのが、徳川家康公のブレインを務めた天海僧正です。

今、全国8万の神社に奉仕する神主の大半は、「お寺とお宮は別」だと考えていると思います。しかし、そうではないと実感させられたのは、千日回峰行者さんとの出会いがきっかけでした。白装束の行者さんが、日吉の神様のご加護に感謝し、真夜中に山王21社をお参りされる。そのお姿を目の当たりにした時、「神職と僧侶の本来の姿がここにある」と思い、大変な衝撃を受けました。この関係を、将来に至るまでずっと続けていきたいと願っています。

比叡山の魅力を わかりやすく伝える場を

——令和3(2021)年には比叡山で「伝教大師1200年大遠忌」の法要が行われます。この歴史的な行事への思いをお聞かせください。

小堀 大遠忌法要では、日吉大社さんや、比叡山とゆかりの深い他宗派からもご足労いただき、法要・神事の一座をお務めいただきましたと考えております。「最澄様はなぜ比叡山を開かれたのか」ということをあらためてお伝えし、最澄様や日吉大社さ

んの魅力を紹介していきたい。お寺と神社の枠を超え、若い世代やさまざまな業界を巻き込んで、広く交流の場を作っていきたいと思います。

馬淵 大遠忌では、山王祭のお神輿を延暦寺東塔の大講堂まで担ぎ上げ、宮司が祝詞を奏上して、伝教大師最澄様への感謝を申し上げる予定です。ひいては、今後百年、二百年、若い世代の方たちにも日本の心が伝わっていくように、延暦寺さんと日吉大社がともにお山の上で祈りを捧げたいと思っています。

——近年、日本人の信仰のあり方が大きく変わり、少子化による参拝者の減少も深刻化しています。

馬淵 過疎化と人口減少は、神社にとっては本当に深刻な問題です。神社本庁は、「過疎化によって全国の神

社の半数以上がなくなる」と危機感を募らせています。日吉大社には「山王本宮講」という講組織があります

が、過疎化とは無縁の都会でも、講を次の世代につなぐことができず、解体が進みつつあるのが実情です。それをつないでいくためには、若手の神職が中心となって、SNSなどインターネットを活用しながら、新しい方向を手探りで模索していく必要があります。その一環として、昨年、漫画「日吉大社」を発行しました。若い人たちの心の奥深くにある日本人の心呼び覚まし、後につないでいくことができれば、人口が減っても流れが絶えることはない。力不足ではありますが、その流れの中で歩み続けたいと思っています。

小堀 比叡山の魅力の掘り起こし

若い世代が奥底に秘めた日本人の心をいかに呼び覚まし、後世につなげていけるか。

馬淵



右／毎年4月12～15日に行われる日吉大社の山王祭。1200年以上の伝統を持ち、4日間にわたって勇壮華麗な歴史絵巻が繰り広げられる。例祭では比叡山延暦寺より天台座主が参拝し、神前で五色の奉幣、般若心経の読経が行われる。

左上／山王祭では7基の神輿が登場し、天下泰平・五穀豊穡を祝う。写真は「宵宮落とし神事」。

左下／山王祭の「花渡り式」。烏帽子と鎧をつけた子供たちが、その日の夜に出産を迎える神様にお祝いの花を供える儀式だ。

神仏が放つ、一瞬の光。 その煌めきを求めて 来ていただきたい。

小堀

をするという意味でも、ひとつの組織的な場を作っていくためには、「講」という言葉を使うか使わないかは別として、日吉様や比叡山の魅力、最澄様の心を、現代の人たちにわかりやすい表現でしっかりと伝える場を作ることが大切だと思います。

比叡山の山道には「出会い」がある

——比叡山には豊かな自然、歴史と伝統、教えなど多彩な魅力があります。今後はどのような魅力を伝えていきたいとお考えですか。

小堀 人が生きていくためには、自然のリズムの中で「食べ、飲み、休む」ことが欠かせません。また、この地には、最澄様が中国の茶を伝えたという由緒もあります。比叡山や坂本の食文化や茶の文化をアピールし、我々が生活の中で当たり前と考えているものを見直すきっかけとしたい。また、「休む」という点では、比叡山の夜の静けさや夜景の美しさも伝えられればと思います。

比叡山の行者はなぜ夜歩くのかというところ、そこには「出会い」があるからです。草木も眠る丑三つ時にこそ、言葉では言い表せない「出会い」がある。それも比叡山ならではの魅力のひとつです。また、山上の宿坊にお泊りいただければ、朝、琵琶湖から昇るご来光を拝むこともできる。そんな、あるがままの魅力伝えていきたいと思っています。

馬淵 日吉大社に來られた方は、「大宮川を渡ると全く雰囲気が変わる」とおっしゃいます。大宮橋は、「冷気」が「靈氣」に変わる瞬間を実感し



日吉大社や比叡山の峰々を巡拝する千日回峰行者。この行は7年がかりで行われ、満行者は生身の不動明王、「大阿闍梨」と崇められる。千日回峰行者が歩く総距離は地球1周分に匹敵するといわれる。



日吉大社の社務所にて歓談する馬淵宮司と小堀執行。床の間には、山王21社のうち上7社のご神像が描かれた「日吉山王垂迹神曼荼羅」が。山王祭の期間中に掛けられる特別な掛け軸だ。神像の下には、日吉大社の神の使いであり、魔除けのシンボルでもある3匹の「神猿さん」も描かれている。

でもらえる場所。また、琵琶湖畔にある唐崎の地も、日吉大社にとって大切な場所です。奈良の大神神社の神様は、琵琶湖を渡って湖西の唐崎に降り立たれ、この地に來られて西本宮の神様となった。この言い伝えを再現するのが山王祭です。

人生の浮き沈みを経験した時には、ぜひ唐崎に佇んでいただきたいですね。目に見えない神様の存在を感じることで、生まれたての赤子のようなエネルギーを再び手に入れ、どんな困難も克服することができる。日吉の境内に一歩足を踏み入れれば、きっとそのことに気づいていただけるはずです。

——寺社の魅力を伝え、日本の文化・伝統を継承していくためには、どのような取り組みが必要でしょうか。「観光」という観点からお考えをお聞かせください。

馬淵 「観光」とは、地域にある光を見出すことだと思います。神職の一番大切な務めは、日吉の神様がお鎮まりになられた、この地の光を伝えていくこと。比叡山に源を發する大宮川の清らかな流れが絶えることのないよう、この境内の整備を進めていくことが、我々神職の務めだと考



山王総本宮
日吉大社
〒520-0113
滋賀県大津市坂本5-1-1
TEL: 077-578-0009
http://hiyoshitaisha.jp



天台宗総本山
比叡山延暦寺
〒520-0116
滋賀県大津市坂本本町4220
TEL: 077-578-0001
https://www.hieizan.or.jp

新

NEW WIND

風

寺社の伝統や文化を広く知らしめる取り組みが広がりを見せています。今回は9月に一般公開を控える薬師寺慈恩殿の細川護熙氏奉納障壁画、新たな禅の取り組み、キャンプシーズンに活況が期待される神社の話題をお届けします。



障壁画は1枚のサイズが小さいもので2×1.2メートル、最大で2.5×2メートル。中央に釈迦のシンボルである菩提樹を描き、左右には釈迦を賛美する多くの人物や動物が描かれている

NEWS 1

制作期間6年にもおよぶ超大作が完成 薬師寺慈恩殿に細川護熙氏が 障壁画「東と西の融合」を奉納

法相宗大本山薬師寺内慈恩殿に、国宝東塔落慶慶賀として細川護熙氏が奉納する障壁画「東と西の融合」が、メディアに公開された。平成25(2013)年から6年間試行錯誤を続けながら細川氏が友人と二人で完成させたこの障壁画の図案は、玄奘三蔵法師によるシルクロードの旅をイメージしている。資料収集や時代考証、現地取材を重ねて描かれており、画材には古いフレスコ画に使われていた顔料を採用するなど、細部にまでこだわり抜いている。障壁画は計66面、全113枚にもおよぶ超大作で、すべて横に並べると157mを超す。

「正倉院の古布を参考にして着物を描いた29体の天女やシルクロード地域で暮らしていたさまざまな国の人の姿など、緻密に描いた細部までご覧いただきたい」と細川氏。

また今回の奉納にあたり、参拝者に広く下張り用紙の奉納もお願いした。「日本中の皆さんから支えていただいているということを形に残したいと考え、奉納していただきました。下張りはすべて障壁画の裏に貼り、皆さんのお名前と共に未来へ伝えていきます」。

障壁画は9月6日に開眼入魂法要を行ったのち、翌7日から15日まで一般公開される。この期間中にも下張り用紙の奉納を受け付けることになっており、より多くの方々のご縁を障壁画と共に後世に伝えていくこととなる。



右/メディア公開時には、細川氏自ら障壁画について説明。左上/下張り用紙は多くの人の願いと共に奉納される。左下/玄奘三蔵院伽藍に隣接する慈恩殿

法相宗大本山 薬師寺
〒630-8563
奈良県奈良市西ノ京町 457
TEL : 0742-33-6001
<https://www.nara-yakushiji.com>

NEWS 2

北海道クルマ旅愛好家に好評 境内で車中泊が可能 「川上キャンピングカー神社」

川上神社
〒088-2312
北海道川上郡標茶町川上7-1
TEL : 015-485-2552

北海道は全国でも有数のクルマ旅エリア。中でも北海道東部は雄大な自然を満喫できるとあって人気だが、そのエリアをキャンピングカーで旅する人たちに、ある神社が口コミで広がっている。

「川上キャンピングカー神社」の愛称で呼ばれている川上神社は、明治期に現地が始まった北海道開拓と共に鎮座している。以前にも地元のアートバイ愛好家から交通安全のためにと相談があり、二輪車用の小さな社を設けたが、平成30(2018)年6月、日本RV協会のくるま旅クラブから車中泊利用者への場所としても相談があったことをきっかけに、クルマ用も開設した。キャンピングカー約5台が利用できるスペースには電源とトイレを設置。何より神社の境内にあるということで安心して過ごすことができると好評を博している。



境内での車中泊は神様に見守られているようで安心だと、利用者に喜ばれている

利用料金は1泊1台1000円、初年度は27台の利用があったそう。「利用された方の中には、翌日発つ前にご祈禱をされる方もいらつしました。安全にキャンピングカーで旅をしていただければ、今後も広く活用してほしい」と長尾式宮司。

国内旅行において車中泊は常に一定の需要があり、近年はさらに増加傾向にある。そうした中、どんな田舎町にも同様の施設が点在するヨーロッパのようにこの取り組みが広がれば、新たな参拝者との出会いのほか、交流人口増による地域への貢献も見込まれよう。

NEWS 3

集中することでさまざまな気付きを得る あめ玉を7分間舐め続ける 退蔵院「ひと粒の禅」

臨濟宗妙心寺派
妙心寺塔頭退蔵院
〒616-8035
京都府京都市右京区花園妙心寺町35
TEL : 075-463-2855
<http://www.taizoin.com>

妙心寺塔頭の中でも屈指の古刹といわれる退蔵院で、今年4月からスタートした一風変わった禅体験が評判となっている。「ひと粒の禅」は、本堂縁側に座り、あめ玉を7分間なめ続けるというもの。企画した松山大耕副住職によると、「観光は今、名所を観るものから、そこで何をやるかにシフトしています。しかし、ただ面白い体験を提供するだけでは何も残りません。この取り組みは「このころのお土産」と呼んでいますが、体験したことを後日振り返ったときに、良かったと思ってもらえるようにしたいと考えてのものです」。

ひとくちに「禅」といっても、いきなり本格的な体験では敷居が高く感じられる。そこで、もっと気軽に禅の世界に触れられるもの、そして体験を通して何かを得られることを、というこで企画された。

評判はなかなか良く、一般参拝者の3〜5%が体験してくれるそう。「ひとつのことに集中して取り組むことで、いろいろな気付きがあると思います。そこから次の自分への何かを掴んでほしい」

体験方法も実にシンプル。本堂前に設けられた台にはあめ玉と「ひと粒の禅」の文字。希望者はそこで300円を置き、縁側に座ってあめ玉を口に入れ、目を閉じるだけ。半跏趺坐をするわけではなく、腰掛ける。その気軽さも、評判を呼ぶ理由だ。



鈴には退蔵院境内で収穫した柚子と、アーユルヴェーダなどで使用される薬草・ゴツコラ(ツボクサ)のエキスなどを練り込んだ

動

NEW WIND

静

NEWS 1 「寺泊」が今後一年の重点施策として 政府の行動計画や観光白書に登場

■2020年の訪日外国人旅行者数4000万人などの目標達成に向け、昨年から進められてきた観光戦略実行推進会議。その議論を踏まえ、政府の今後1年を目的とした行動計画「観光ビジョン実現プログラム2019」が6月14日に発表された。その内容には、寺社などの文化財に多言語解説を設けるなど受け入れ環境整備を早急に進めることが決められた。

また6月21日に閣議決定された令和元年度版観光白書にも、今年度に講じようとする施策の中に「寺泊」が盛り込まれた。

今後は開拓を推進して健全な民泊サービスとして普及が図られると共に、観光まちづくり官民連携推進チームで得た知見を生かし、円滑な運用も促進される。また、日本政府観光局(JNTO)がその魅力を海外に一元発信し、そのための体制強化も図られていくこととなる。



寺社文化を深く知ることができる、これまでにない宿泊体験の創出が求められている

政府の後押しを受け、さらなる活性化に期待

また6月21日に閣議決定された令和元年度版観光白書にも、今年度に講じようとする施策の中に「寺泊」が盛り込まれた。

今後は開拓を推進して健全な民泊サービスとして普及が図られると共に、観光まちづくり官民連携推進チームで得た知見を生かし、円滑な運用も促進される。また、日本政府観光局(JNTO)がその魅力を海外に一元発信し、そのための体制強化も図られていくこととなる。

また6月21日に閣議決定された令和元年度版観光白書にも、今年度に講じようとする施策の中に「寺泊」が盛り込まれた。

今後は開拓を推進して健全な民泊サービスとして普及が図られると共に、観光まちづくり官民連携推進チームで得た知見を生かし、円滑な運用も促進される。また、日本政府観光局(JNTO)がその魅力を海外に一元発信し、そのための体制強化も図られていくこととなる。

政府や地方行政などの取り組みにおける寺社関連の話題をご紹介します。今回は政府「観光ビジョン実現プログラム2019」や「観光白書」に寺泊が盛り込まれたこと、京都市における警察署と寺社との協定締結です。

NEWS 2 災害時には寺社の境内が警察署に 京都市内の各警察署が 宗教施設と災害時協定を結ぶ

■過去の防災特集(寺社NOW24号参照)でも触れたが、現在全国の行政機関が宗教施設との防災協定を締結する動きが始まっている。避難所としての活用などが主な協定の内容だが、京都市内にある警察署では、災害で警察署が使えなくなった場合に備え、代替施設として活用するために管轄地域の寺社と協定を結ぶ動きが広がっている。すでに南区南署が平成26(2014)年に東寺と、東山区東山署が平成28(2016)年八坂神社と締結し、伏見区伏見署では昨年締結した御香宮神社に加え、今年5月には、平安遷都時に創建された城南宮とも協定を締結した。広さ、機能面などから検討した結果、寺社が候補地となっているようだ。



地域の誰もが知る寺社が災害時の拠点となることは、人々の安心につながる(写真は熊本県の光照寺)

城南宮によると、「警察も神社も、地域の皆さんのために活動する」という点では同じ」という思いがあり、また駐車場が幹線道路に面しているため災害対策車両の出入りが容易できると判断し、協定締結に至ったという。

寺社の公益性は、災害時こそ地域の力となり得る。今後も全国的に寺社と公約機関との連携は増えていくと見られている。

《日本の明日を寺社と共に。》 未来考創

寺社をテーマにした観光について 未来志向で取り組む人を訪ね、日本の未来を共に考え、創造します。

社寺観光と訪日台湾人
第3回 公益財団法人日本台湾交流協会 台北事務所 代表 沼田 幹夫氏

台湾の人たちは日本に驚き、感動する。文化・伝統の継承と豊かな自然。その人から見た日本の魅力を理解すれば 発信や工夫も変わってくる。

廣瀬 台湾では今、日本はどのよう

沼田 平成30(2018)年度の訪日台湾人は約476万人。そのうちの約25%が「日本の歴史・伝統文化体験」に興味を持ち、実際に訪問しています。実は東アジア圏の国々で日本

の社寺に最も興味を持っているのは台湾人なのですが、熊野古道のように観光スポットとしてツアーに組み込まれている場所のほかに、日本人が気付いていない所がパワースポットなどとして台湾の人に人気だったりもします。台湾も日本のように多宗教が混在していますが、多くは現世利益を求めて訪れる場所です。しかし日本はスピリチュアルで平和を求める心が日々の生活に密接に関わっています。そこには清々しさや静寂があり、それが台湾の人にとって魅力的に映ります。静かな空間だけでなく、例えばお香の香りに癒されるということも、体験した人

たちが台湾に戻って広め、それを知った人が訪日する流れが生まれています。欧米では日本の社寺に禅や精進料理など哲学的な要素を求めますが、台湾ではまるで違うのです。

廣瀬 社寺の建物(文化財)は、台湾の人にとって映るのでしょうか？

沼田 山中や山上の静かな空間、そこへ向かう道、向かった先に何百年もある伽藍や仏像は、台湾人にとって今まで見たこともない価値観であることは違いありません。それが今日まで生きていくわけですから、感動するのです。そもそも台湾に大陸から人が移り住んで来たのは4500年程前。しかもその時期のものはあまり残っていません。

例えば台湾で古くて最も全土にあり美しく保存されている建造物の多くは、日本の植民地時代に建てられたものです。ですから台湾の人からすると、比叡山や高野山、永平寺、身延山など長い歴史と共に伝統や文

化が生きている社寺は、どこへ足を運んでも感嘆するのではないでしょう。ただ大きな違いは、台湾の人々が母国で拝んでいる像というのは、お金を稼いできた人の像。日本の仏様をどのような思いで拝んでいるかは未知数ですが、これらは国が違えば興味の対象がまるで違うという一例ですね。

廣瀬 今後の社寺観光に大切な目線とは何でしょうか？

沼田 台湾では、修行したり神仏を拝むのは自分だけのためですが、日本に伝わった仏教というのはむしろ皆で協力しながら社会をよくしていくものだと思います。そしてその教えには自然環境が大きな影響を与えています。他者のために祈り、そして祈りの場所がこれだけ美しく維持されてきたことは、日本の誇りであり外国人には何よりの魅力です。このあたりの違いを理解することは、今後の世界的な観光の流れの中で重要だと思います。



沼田幹夫/元 在ミャンマー連邦共和国 日本国特命全權大使、平成26(2014)年より現職。台湾と日本は国交がないため、台北事務所代表は国交樹立国で言う大使にあたる



聞き手/廣瀬崇之 一般社団法人日本社寺観光連盟理事。元内閣府特命担当大臣秘書官、文化観光リサーチ株式会社代表

観光そのものが進化し続ける
その中で重要性を増す寺社

世界は今、年間14億人が移動する大旅行時代に突入していると言われている。その中で観光(ツーリズム)産業はGDPでエネルギー、化学産業に次ぐ第三の基幹産業として位置付けられるまで成長しており、その成長率は、世界経済の成長率を上回るほどだ。観光産業が成長することで、雇用が生まれるだけでなく地域の活性化、イノベーションの創出といった多様なメリットが期待される。ゆえに今後の成長から目が離せない。

そもそもツーリズムは、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路やイスラム教の聖地メッカ巡礼、日本においては熊野参詣や四国遍路などがあるように、聖地巡礼が起源となっている。つまり寺社とツーリズムはもともと親和性が高い。そのことを実証するかのよう最近、寺社ツーリズムが注目され始めている。といっても建物や文化財を見るだけではない。寺社が地域を巻き込み活性化している地域に多くの人が訪れるようになっていく。

見遊山から明確なテーマを持った旅へと、観光が進化している。

今回紹介するのは、食をキーワードに門徒などを巻き込み、やがて地域を元気にしている「フードツーリズム」、神社自らが地域に新たな観光を生み出している「サイクルツーリズム」、そして周辺の寺院が協力し合い広がった超宗派イベントが地域の人々の場に成長している「アーツツーリズム」という3つの事例。一つひとつにテーマや物語があり、それが人を惹きつけ、ひいてはまちの活性化にひと役買っているようだ。寺社は日本の伝統や文化が連続と受け継がれている場所であり、地域と深く関わってきた存在。つまり、紹介する事例のように寺社がツーリズムの主体となれば地域振興も実現し、かつ寺社そのものへの関心を高めることができるという。

前世紀型の観光旅行ではなく21世紀型のツーリズムは今後、まちづくりを意識したものへとさらなる進化を遂げていきそうだ。そうした流れの中で寺社は何ができ、何を期待されているのだろうか。専門家の意見や今後の予測を交えながら考えてみたい。

旅先で寺社を訪れる際は、寺社がある地域も含めて観光する人が増えている



世界が大旅行時代に突入している今こそ、動きだそう。

「テーマ」で考える 寺社観光

インバウンドで訪日外国人が激増している現在、世界的に「観光」が大きく変化している。ただ行って眺めるだけでなく、地域や歴史を自分ごととして体験できる、物語性のある土地を訪問する旅へと進化している。「物見遊山の観光」から「テーマ別観光」へ。今号は、その流れの中で寺社が主体となって動いている事例と共に、「観光」の今を紹介したい。

ニューツーリズムの例

- ◆文化観光
その国や地域の歴史、伝統といった文化的要素に対する知的欲求を満たすことが目的の観光。近年需要が拡大している
- ◆ロングステイ(長期滞在型観光)
国内旅行需要の拡大や地域活性化の起爆剤となる、かつ旅行者が地域との深い交流により豊かな生活を実現するための観光
- ◆ヘルスツーリズム
自然豊かな地域の環境や温泉、身体に優しい料理などで癒され、健康を回復・増進・保持。または先端医療に触れる観光
- ◆産業観光
歴史的・文化的価値のある工場やその遺構、機械器具、最先端の技術を備えた工場などでの学びや体験を伴う観光
- ◆フードツーリズム
独自の食文化を持つ地域を訪れ、その地域の文化や伝統と共に食を楽しむ、食文化と観光が融合した新しい観光
- ◆ダークツーリズム
戦争被害や死について学ぶ、あるいは自然災害などに関する体験や、人類の負の歴史などを対象にした観光
- ◆エコツーリズム
自然や歴史文化を対象に、それらを損なうことなく体験し学ぶ観光。野生生物の観察や環境保全ボランティアなども含まれる
- ◆サイクルツーリズム
自転車地域をゆったりと健康的に回る観光。参加型、観戦型、設置型(レンタルサイクル)、ツアー・企画型の4分野がある
- ◆アートツーリズム
美術館などの展示施設や野外彫刻、その他さまざまな芸術作品を巡ること、地域の文化に触れる観光
- ◆グリーンツーリズム
農山漁村で自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の観光。農作業や加工体験、農林漁家民泊、食育などがある

瀬戸内ジャムズガーデンが誕生するまで

きっかけ

白鳥住職の夫がジャム専門店開業を決意。義父である荘厳寺前住職が事業計画書を見て地域で相談、門徒さんたちの協力を得て開業へ。そこから3年は住職が島外から定期的に島へ戻りジャムを製造。ネット販売と近隣道の駅での販売を中心に、夏期限定でショップもオープンさせる

アクション

周防大島は柑橘栽培が盛ん。門徒さんにも柑橘農家が多く、そこから柑橘類を一般的な加工用卸価格よりも高値で仕入れることに。また柑橘以外のフルーツも、店が農家に苗を提供し、栽培が始まっている。島で完熟したフルーツのジャムが評判となり、多方面から来店者が増える

まちに起こった変化

檀家さんを中心とする近隣の柑橘農家は収入が上がり、農業が活性化しただけでなく、ジャム店では雇用も創出。住職夫妻の1ターンも評判となり、島への移住を検討する人が店を経由して移住へ。さらに店とセットで荘厳寺を訪れる人も増え、寺の収入も安定してきた

カフェも併設しており、ジャムを使ったトーストや島で収穫される季節のフルーツを載せたピザなどが人気。窓の外には静かな海が広がる



店の隣に工房があり、建物の外までジャムを炊く甘い香りが漂う。スタッフは自分の時間に合わせて多様な勤務形態。働き方も島の暮らしに合わせている

ムは何といても原材料がすべて。いい材料を仕入れ続けるためには、農家の皆さんが農業を続けられる必要があります。これまで島では、規格外の柑橘類は値が付かないか、付いても低価格でした。しかし完熟度はジャムの原材料に最適。そこで仕入れ値を計算し、一般的な加工用の価格より高い適正な金額で仕入れることにしたのです」と匡史氏。これがジャム専門店でおいしいジャムを生

寺とつながるジャム店が まちを元気にしていく

寺社

フード ツーリズム

「瀬戸内ジャムズガーデン」
浄土真宗本願寺派 荘厳寺
[山口県]



白鳥智明住職と夫・白鳥匡史氏。店の前には瀬戸内らしい静かな海景色が広がる。智明住職はシンガーでもあり、時には寺で歌うことも。匡史氏は内閣府地域活性化伝道師も務める

門徒さんの協力を得て 島に生まれたジャム専門店

瀬戸内海に浮かぶ周防大島で、島の活性化を牽引している「瀬戸内ジャムズガーデン」というジャム専門店がある。ここは島の中部、日前地区にある浄土真宗本願寺派荘厳寺の白鳥智明住職の夫・匡史氏が代表を務めているが、寺との関係があつてこそ事例となっている。

発端は18年前、寺での暮らしから離れるために島を出て結婚した夫妻が新婚旅行でパリを訪れ、匡史氏が1軒のジャム専門店に出会ったこと。当時会社員だった匡史氏は帰国後にジャム専門店の事業計画書を作成、それを島に暮らす義父の前住職に見せたことから話が進み、平成16(2004)年に開業。現在は法人組織として地域の雇用を生み、門徒が多い地域の農業も活性化、島への移住希望者の窓口にもなり始めている。

「店舗を構える前にネット販売から始めたのですが、15年前はまだジャムを扱うショップがほかにはなく、一気に話題になりました。しかし、おいしくなければ続きません。現在のように運営できるようになったの

み出し、多くの人が店を訪れる現在の形につながり、また地域の農家をも元気にしている。

寺と店と地域のつながりは 新たなステージへ

開業から15年が過ぎた今、移住の成功例としてお店には客だけでなく全国から多くの人が視察にも訪れる。また、噂を聞きつけた近隣の門徒さんや坊守さんが団体で訪れるようになっている。

「視察が大人数の際は主人の講演で寺の本堂を使うこともありますし、山口県や広島県の門徒さんや坊守さんたちがツアーで訪れた際には前住職の法話とジャム店訪問がセットとなり、そのあとは地域の飲食店へ足を運んでもらっています」と住職。実はここ30年あまりで、地域の過疎化などが要因となり門徒数がかなり減っている。このままではいずれ寺

は、門徒である島の農家の方々の協力が大きいですね」と智明住職。実は店舗のある場所は、門徒さんの知り合いから紹介を受けた土地。原材料も門徒である柑橘農家から大部分を仕入れている。しかし、決して寺と門徒の関係甘えている訳ではない。「島に縁もゆかりもない人間では、事業を立ち上げられなかったと思います。お店はお寺と門徒さんとの関係があつたからこそ始められたのです。だからこそ地域の皆さんと共に歩める方法を考えました。ジャ

「門徒さんの中には島を離れる人も出てきています。しかし帰省するときのために家は残したい。そんな人たちから家の管理を任されるようにもなってきました」という白鳥文明前住職。管理を預かった家は、移住希望者が住居を見つけるまでの仮住まいとしても活用している。瀬戸内ジャムズガーデンの農業部長として、畑や店の前の植栽も管理する



院運営も立ちゆかなくなるだろう、そう考えていたのだが、ツアーによる収入が寺院運営の助けにもなり始めている。また匡史氏のもとには島への移住希望者が訪れるようになり、匡史氏が前住職と共に、彼らの島での仕事や住居を紹介していく流れも生まれてきた。

今ではフードツーリズムの好例として全国的に知られる瀬戸内ジャムズガーデン。寺と店が島と外の人をつなげることで、地域に活気を呼び込んでいる。



浄土真宗本願寺派荘厳寺
〒742-2804
山口県大島郡周防大島町
日前 1992
TEL : 0820-73-0351

瀬戸内ジャムズガーデン
<http://jams-garden.com>

房総神社サイクリッドが 盛り上がるまで

きっかけ

岡野氏が女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」の事業本部長を務めていた2017年、チームの愛媛遠征に帯同し、帰りにしまなみ海道を2日間かけて自転車で走行。その達成感に大きなヒントを得て、房総半島をサイクルツーリズムによって活性化することを思いつく

アクション

房総半島の神社に奉職する若手神職の集まりで、神社をチェックポイントにしたサイクルコースの整備を提案。賛同した神職仲間で木製のサイクルラックを20脚ほど作り、各神社に設置することから始めた。また、神職が同行して地域を案内するサイクリングツアーも開始

まちに起こった変化

2018年4月から、「房総神社サイクリッド」に賛同した神社をまわるスタンプカードを配布し、「BOSO JINJA RIDE STAMP RALLY」をスタートさせる。現在では、鴨川市内を走るサイクリストのためにコンビニエンスストアにもサイクルラックが設置され始めている

平成30(2018)年にはBBBASEとコラボして、神職とライドする「房総神社めぐりあい巡拝サイクルツアー」を実施した。そして現在、岡野氏は地域と共に



あまつしんめいぐう
天津神明宮
〒299-5503
千葉県鴨川市天津2950
TEL: 04-7094-0323
http://www.shinmei.or.jp

今夏には、天津神明宮が所有する物件を開放して、宿坊をスタートするという。境内の駐車場もサイクリストに開放し、パーク&ライドとして提供。サイクリングのあとにシャワーを浴びたり、軽食を取れる場所も整備する予定だ



きることがあるのではないかと感じたのです」
鴨川に戻った岡野氏は、房総半島の神社に奉職する若手神職たちに、神社をチェックポイントにしたサイクルコースの構想を明かした。そし

て多くの神職から賛同を得て、「房総神社サイクルライド推進委員会」が発足。
神職たちが先導するサイクルツーリズム
「まずは自分たちが走ってみて困ったことを解決することから始めることにしました」。サイクリストの多くは、自立スタンドのないロードバイクで訪れる。それならばサイクルラック

サイクリストの集う神社が 観光開発を先導する

クを設置すれば、神社への立ち寄り
を促せるのではないか。そう考えて
手作りのサイクルラックを設置。環
境を整えたら、次は「達成感」を味
わってもらうためのコンテンツの検
討に入った。
「もともと我々は『ふさのくに神社御
朱印めぐり』を行っていましたが、荷
物を最小限にしたいサイクリストに
とって、御朱印帳は大きすぎる。そ
こで、ポストカードサイズのスタン
プラリー台帳を作りました」
こうした活動がメディアにも取り
上げられるようになった頃、東京と
房総半島を結び、自転車を持って乗
車できるJR東日本のサイクルトレ
イン「BBBASE」の運行がスタート。
平成30(2018)年にはBBBASE
とコラボして、神職とライドする「房
総神社めぐりあい巡拝サイクルツ
アー」を実施した。

どう盛り上げるかを考え始めている。
「鴨川市内では今、コンビニにサイ
クルラックの設置が進められており、
いずれは半島全体に広がるでしょ
う。サイクリストの誘致が地域全体
で活発化すれば、次はパーク&ライ
ドや宿泊施設が必要となります。鴨
川は宿泊施設が多いのですが、やや
高額。サイクリストの多くは車で来
るので、より安価で気軽に宿泊でき
る施設、加えて駐車場やシャワーが
使える場所もほしい。それらを神社
でも提供していきたいですね」

寺社 サイクル ツーリズム

「房総神社サイクルライド」
天津神明宮
[千葉県]



2018年9月に行われたサイクルツアーの様子。勝浦まで3時間かけてサイクリングを楽しんだ。次回は千葉県の一宮をめぐるツアーも検討中



天津神明宮の岡野禰宜。房総神社サイクルライドのユニフォームやロゴマークも岡野さんのデザイン

地域活性化のために 神社ができることを検討

平成20(2008)年のこと、IT
企業の代表も務めていた千葉県鴨川
市・天津神明宮の岡野大和禰宜のも
とに、鴨川市のポータルサイト「かも
がわナビ」の制作依頼が来た。これ
きっかけに地域情報誌の編集長や女
子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」の
事業本部長にも就任。やがて岡野氏は
地域に深く関わり始めることとなる。
「さまざまな活動の中で、神社も観
光資源のひとつだと実感するよう
になりました。神職の立場からも、地
域を盛り上げるためにできることは
ないかと考えるようになったのです」
そして平成29(2017)年、オル
カ鴨川FCの遠征で愛媛県を訪れた
際、サイクリストの聖地と呼ばれる
しまなみ海道を、ロードバイク未経験

験ながら2日間かけて走って見た。
「とにかく厳しい道のりでしたが、つ
らい坂を登りきると橋があり、そこ
からの景色を見た瞬間、何ものにも
代えられない達成感に満たされまし
た。素晴らしい眺めはほかにもあり、
どこも自転車の疲れが吹き飛ばほど
の絶景。一方房総半島は、サイクリ
ストは多いものの、彼らのための設
備があまり整っていないことが情報
誌の取材を通して気になっていまし
た。このとき、我々神社にも何かで

房総神社サイクル
ライド推進委員会
のメンバーは20~
40代の若手神職
たち(写真上)。視
察を兼ねて定期的
にサイクリングを
しているそう。神
社の景観に合わせる
ため、金属製では
なく木製のサイ
クルラックをメン
バーで手作りし、
神社に設置(写真
左上下)



きっかけ

修行から自坊に戻った崇禅寺三香美住職が友人と二人で、お寺に若い人が足を運べるイベント開催を企画。話題になるように複数の寺で、かつ若い人の感性に触れるものと考え、地元の若手作家と金沢工芸美術大学生などに展覧を依頼し、アートイベントを立ち上げる

アクション

地元の新聞社やラジオ局に告知を依頼。出展者は希望会場の住職と内容について話し合い、展示内容を決めていく形に。資金は来場者からの協賛金と出展料でまかなう。3つの寺で始め、運営がうまく行きだした5年目からは周辺の寺院へも声を掛け、11の寺で開催すること

まちに起こった変化

子供から高齢者まで、幅広い年齢層が期間中に足を運んでくれるようになった。また、金沢で活躍しているアーティストやかつて美術を学んでいた人たちがイベントを機に作品を創り、参加するなどの動きが出てきたほか、出展者からは後日企画の持ち込みが来るなどの展開も



「つかの間の世界」(上、2014年廣誓寺会場)、「お堂に栄える木」(右上、2015年廣誓寺会場)、「浅野川」(下、2016年聞善寺会場)など、どれもお寺という空間をさまざまな解釈で展示スペースとして活用している。非日常の空間演出が、来場者に好評だった



寺社
×
アート
ツーリズム

「oterart金澤」
曹洞宗菅原山崇禅寺ほか
〔石川県〕

2017年に「破壊と創造」がテーマだった2017年に浄光寺会場で展示されたのは、建て替えのために旧校舎がなくなるという小学校の卒業生約1000人分の手型。小学校は校章が紅葉の形、手型はまるでたくさんの紅葉

若い人を寺に呼ぶために
手弁当企画がスタート

金沢市中心部の寺を舞台としたアートイベント「oterart金澤」が、毎年夏に開催されている。平成22(2010)年に3つの寺でスタート。アートを鑑賞しながら寺巡りもできるイベントとして、昨年は延べ3200人ほどが訪れた。入場は無料、観客は地域の人を中心に、金沢を訪れる観光客。企画したのは当時20〜30代の若手僧侶たち。

「会場となっている聞善寺の住職と私が修行から金沢へ戻った10年前は、全国的に若者の寺離れが叫ばれていました。私たちも今後の寺の在り方を考えていくうえで、若い人がもっとお寺に足を運ぶことを実施しなければ、と思いついたのが始まり



実行委員長を務める崇禅寺の三香美晋道住職(右)と実行委員で事務局を担当する浄光寺の藤任意住職(左)。「オテラートがあるから金沢へ行こう」となるような企画に育てたいと考えている

です」と言うのは、実行委員長を務める曹洞宗菅原山崇禅寺の三香美晋道住職。

金沢市内のお寺では、それぞれが何かしら小さな企画を随時開催していた。しかし単独では話題にならないう。ならば超宗派で、地域のお寺という枠組みで考えるべき。そこを出発点に思索を重ね、地元の若手作家と、近くにある金沢工芸美術大学などの学生から作品を展示してもらうアートイベントを開催する運びとなった。基本ルールは、毎年決定するテーマに沿った作品であること。しかし、ただ場所を提供するだけでは「お寺らしさ」をアピールできない。そこで「出展者が会場となる寺と打ち合わせを重ね、寺に合うアートを展示する」というルールも設けた。「僧侶も展示の過程に加わり、作家と共に会場づくりをしていくのが特徴です。そうすることで、お寺の空



毎年パンフレットを作成し、金沢駅の観光案内所をはじめ市内のお店や美術館などに置いてもらっている。今年はスタンプラリーも計画中

住職たちのアイデアで生まれ 地域の「場」に成長した芸術祭

間とアートとの絶妙なバランスを楽しんでいただけます」と三香美住職。住職とアーティストの手弁当的な企画によるスタートから5年目、運営も軌道に乗ったと感じたことで周辺の寺へ声をかけることに。そこで参加を表明したのが、現在は実行委員でもある真宗大谷派龍向山浄光寺の藤任意住職だ。

「最初は観客でした。しかし見ていると、ジャンルにとらわれないアートのごちゃごちゃとした雰囲気をお寺という静謐な空間が包み込んでいる。その様子に感銘を受け、参加を決めました」。ほかにも複数の寺が参加を表明し、5年目からは全4エリア11か所の寺での開催となった。

お寺を活動の場とする 市民の新たな動きも

お寺でアートを展示したことは、思わぬ効果を生んだ。書道作品を出展した書家から相談を受け、寺で書道教室を始めることになったほか、町の人から「こんなことはできないか」と相談が来るようになった。

「お寺にもっと人が来るようにと考えていたのですが、結果的には、地域の人を結び直す役割をし始めている気がします。お寺本来の機能である「場づくりですね」と三香美住職。また藤住職は、もともと関わりを持っていった地域の小学校の生徒たち

による作品を、期間中に自坊で展示している。「同級生や先生、親や地域の方たちに見てもらえることで、子供たちはとても楽しそうに作品づくりをしています。テーマに沿って地域の歴史などにちなんだ作品にしていくのですが、このアートイベントは子供たちにとって自分が暮らす町の再発見にもつながっています」。

10年目となる今年は、県外へも積極的に広報していく予定だ。ローカルな取り組みが金沢の新たなアートツーリズムへと成長を遂げる。



oterart 金澤 2019
実行委員会事務局
TEL : 076-252-4922
(浄光寺内 受付10時~18時)
<https://www.oterart.com>

【ツーリズムの現状と寺社の可能性を専門家に聞く】

地域の総合的な魅力を創りあげていくことが鍵

世界的な旅行者増の現在
日本は注目されている

UNWTO 国連世界観光機関が国際観光のデータをまとめたツーリズムバロメーターによると、平成30(2018)年は速報値で約14億人が世界中を旅行しています。世界的に旅行者数は年々伸びていて、年間約8億人だった平成17(2005)年から年率4%の伸び。特にアジアは6.4%と世界平均を上回っています。その中でも、日本の国際観光は極めて高い伸びを示しています。

日本は東日本大震災の影響もあり、一時は訪日外国人人数が約600万人にまで落ち込みました。しかし平成30年には3119万人にまで回復。この伸び率は誰も予想し得なかったことです。震災をきっかけに、「助け合い」といった日本の精神文化が海外に紹介されるように

なりました。特に欧米では、世界にはない価値感を持つ国として日本の評価が高まってきました。それから数年経った今、このような精神文化を象徴する訪問地として、寺社が世界から注目されています。

一方国内旅行者数はここ数年横ばいが続いています。しかし市場構造を見てみると、例えば歴史文化観光の分野では、シニア層よりも若い世代の方が高い関心を示しています。また20〜70代を対象としたアンケートで、関心の高いコンテンツに寺社めぐりが上がっています(下グラフ参照)。

つまり国内外を問わず、寺社は世界的視野で見たこれからの観光の中で、大変重要なポジションにいるのです。ただ、我々日本人は寺社文化について、詳しくはなくてもある程度は理解できていますが、海外ではどうでしょう。例えば伏見稲荷大社をはじめ、美しい朱塗りの鳥居が連なっ

ている場所がSNSなどを通じて紹介され、訪日観光客には大変人気です。しかし、その意味はどれだけ理解されているでしょうか。また、世界各国の人気観光地をランキング化しているトリップアドバイザーでは、なぜか伊勢神宮が上位に上がってきていません。日本人には長く人気であり続けている場所であるにもかかわらずです。つまりまだまだ、日本の寺社文化について情報が発信できていないと考えられます。

これからの観光では
地方が欠かせなくなる

一方、日本政策投資銀行と日本交通公社が2018年に行ったアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(21頁上表参照)によると、地方観光地への訪問意向が高い水準にあることが分かります。また観光庁が発表している宿泊旅行統計を見て

●日本の地方観光地の訪問経験有無および今後の訪問意向 (回答は一つ。単位:%)

回答者→	全体	アジア全体										欧米豪全体			
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス	
サンプル数	2,833	2,425	373	338	406	401	308	268	151	180	408	97	125	79	107
地方訪問経験有り															
以前旅行したことがあり、今後もぜひ旅行したい	42	43	28	45	42	45	55	40	38	49	38	42	38	27	41
以前旅行したことがあり、今後も機会があれば旅行したい	30	30	32	32	34	27	27	25	34	27	28	28	29	32	23
以前旅行したことがあるが、今後もあまり旅行したいと思わない	4	3	3	2	1	0	0	8	4	3	8	8	4	11	9
以前旅行したことがあるが、今後も旅行しないと思う	2	2	2	2	1	1	1	2	1	3	4	3	2	8	3
地方訪問経験なし															
旅行したことはないが、今後はぜひ訪れてみたい	13	13	17	10	12	13	13	17	16	15	13	11	13	15	13
旅行したことはないが、今後は機会があれば訪れてみたい	9	9	16	8	9	4	4	7	5	4	7	3	12	4	7
旅行したことはなく、今後もあまり訪れたいと思わない	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	
旅行したことはなく、今後も訪れたいと思わない	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	2	3	1	4	1

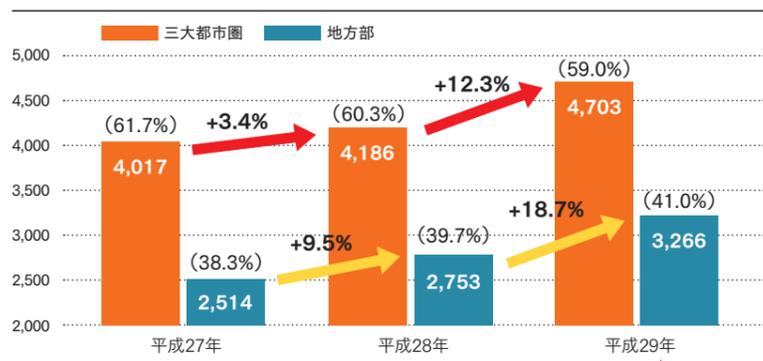
日本政策投資銀行・日本交通公社 アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査(2018年度版)

●日本の地方観光地を訪れた際にしたいこと (対象:「地方観光地」訪問希望者) (回答はあてはまるもの全て。単位:%)

回答者→	全体	アジア全体										欧米豪全体			
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス	
サンプル数	2,645	2,297	347	323	395	379	303	239	141	170	348	82	115	61	90
温泉を楽しむ	56	58	68	46	64	55	54	62	141	52	44	35	54	39	43
自然観光地を訪れる	55	56	44	49	70	43	56	67	68	66	51	49	60	39	48
郷土料理を食べる	53	53	46	37	57	47	63	70	60	54	55	50	67	48	51
その土地で採れた魚介や肉、野菜や果物を味わう	49	50	42	43	56	50	40	68	55	48	47	49	58	39	36
歴史的な建造物(寺や神社、城など)や遺跡を訪れる	48	47	37	36	63	39	49	45	58	55	56	59	61	51	52
歴史的な街並みを楽しむ	48	47	46	39	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
花や紅葉を楽しむ	44	45	29	35	43	50	54	48	58	53	37	37	37	23	48
雪景色を楽しむ	42	44	32	32	49	42	53	49	57	54	30	23	35	23	37
都市部とは違った地方ならではの風景を楽しむ	40	40	27	27	48	35	49	50	51	48	41	33	46	34	48

日本政策投資銀行・日本交通公社 アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査(2018年度版)

●三大都市圏及び地方部における外国人延べ宿泊者数比較 (単位:万人泊)



観光庁「宿泊旅行統計」(2018年度版)
3年連続で地方の方が三大都市圏よりも伸び率を上回った。また地方部のシェアが調査開始以来初めて4割を超えた

も、三大都市圏(東京圏、名古屋圏、大阪圏)よりも地方部で宿泊率が伸びています。その理由として挙げられるのが、地方の方が総合的な魅力を持つている、ということ。先の意向調査で地方観光地訪問希望者を対象にしたアンケートでは、寺社など歴史的建造物や郷土料理に注目が集まっていることがわかりま

す。例えば京都は寺社など歴史文化観光の宝庫です。しかし地方は、京都より歴史文化観光のコンテンツ量は少ないものの、豊かな自然や歴史情緒を感じる街並み、郷土食などがあります。訪れることでさまざまな魅力を総合的に感じ取れること、そこがこれからの観光では重要になってくるのではないのでしょうか。

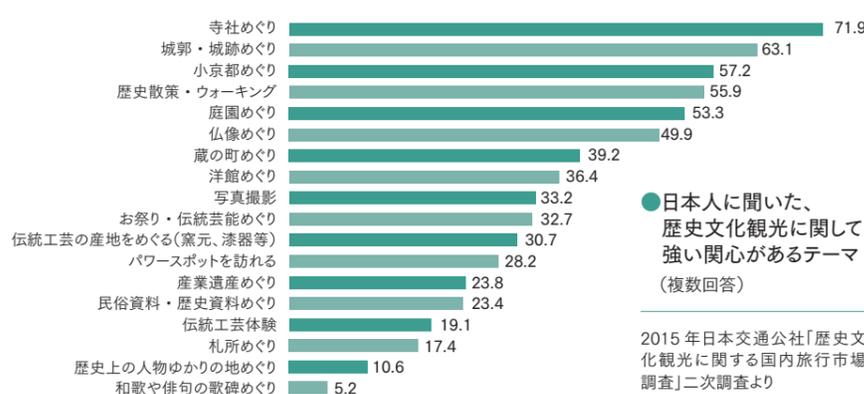
地方のツーリズムでは
寺社が主役になり得る

インバウンドでは今後リーダーが増えます。その時、地方で寺社の魅力が整理・整備され、しっかりと発信されれば、とても強力な魅力となります。また寺社をきっかけに地域も元気になれるはず。また地域

に人を呼ぶことができる寺社が地域全体と連携し、声を上げることで、行政も動きやすくなるはず。訪日観光の中では、まだ地方観光ムーブメントが定着していません。これは今後の地域活性化の鍵です。そこに寺社の世界観や雰囲気、歴史が加わることは、日本の価値を高めることにつながっていくでしょう。



塩谷 英生
公益財団法人日本交通公社理事、観光経済研究部長。観光統計や経済効果、インバウンド、観光財源、旅行市場分析が専門領域。経済産業省「共同・協業販路開拓支援事業」審査委員会メンバーのほか、複数の地方行政で観光関連委員会メンバーも務める



●日本人に聞いた、
歴史文化観光に関して
強い関心があるテーマ
(複数回答)

2015年日本交通公社「歴史文化観光に関する国内旅行市場調査」二次調査より

文化や伝統を未来へつなぎ、寺社を活性化させている人や活動。2つの事例を紹介します。

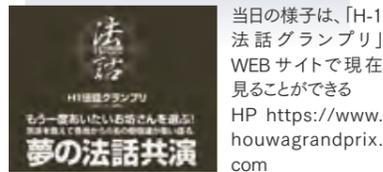
No. 1

「また会いたい」と思われるお坊さんになる。そのために僧侶が学ぶ場を設ける

超宗派の法話が人々と仏教の距離を縮める

6月2日、どのお坊さんにまた会いたいかを決める「H-1法話グランプリ」が兵庫県神戸市の真言宗須磨寺派大本山須磨寺で開催された。超宗派の僧侶7組が出場した本行事は、特設サイトで販売した200枚のチケットが10分で完売したうえにキャンセル待ちが1600人、須磨寺の寺務所で販売した218枚も2日間で完売するほど注目を集めた。

企画したのは、須磨寺の小池陽人寺務長。かねてより「生きていくための仏教を伝えていきたい」と考えており、兵庫県下の寺院で開催された同様の会への参加をきっかけに、自身でも開催することを考えた。「一般の人に向けて話し、評価もいただくような会を催すことは、若手の研鑽の場になります」。自分も含めこれからの仏教界を担っていく若手僧侶がもっと学び、経験を積む。その過程を一般の方に応援していただけたらという思いで、多方面からの協力のもと開催に至った。



当日の様子は、「H-1法話グランプリ」WEBサイトで現在見ることができると記載されている。HP: https://www.houwagrandprix.com

No. 2

日本文化の素晴らしさがおみくじには生きている。文章を翻訳することでその良さを広めたい

本業の翻訳業を生かし多言語化にいち早く対応

訪日外国人に近年話題なのがおみくじ。しかし日本語版だけの寺社も多く、なかなか海外からの訪問客に内容が伝わらないのが実情だ。そんな中、原口昭一さんが企画する外国語版のおみくじが注目されている。

原口さんは通訳案内士(中国語)の有資格者。回数は減ったものの今でも中国語で日本を案内しているが、寺社を訪問をする際、必ず聞かれるのがおみくじ。だが、多くのお客さんが興味を持つものの外国語に対応していない場合が多い。この状況を解決すれば参拝者と寺社の双方が喜ぶはず。その発想から多言語のおみくじ



運動会や入学式、除夜の鐘など日本の暮らしの中の年中行事を萌え系イラストで表現した新たなおみくじは、欧米人に人気

が生まれた。「おみくじの文言を明日からの生き方の参考にするというのは、寺社に生きる日本の文化です。せっかくの日本観光、おみくじのことも正しく理解してもらいたい」と、多言語おみくじの裏面には各言語でおみくじそのものの解説も記載している。現在は11の言語に対応。単独言語だけでなく日英併記や5か国併記のおみくじも展開している。また、おみくじの引き方解説、漢数字からアラビア数字の対照表など、訪日観光客が何を知りたいのかを現場で観察している原口氏ならではの視点が大切に生かされている。

おみくじの多言語化を推進する、シープロジェクトの原口昭一さん



おみくじを企画するに当たっては、読む人の心にずっと入っていく文章を心がけるといふ原口さん。ほかにも読みやすい書体を採用するなど、独自の工夫も怠らない



日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語に対応した5か国語併記のおみくじが好評。おみくじの言葉はおみくじ専門のライターに依頼し、前向きな表現の言葉をできるだけ選ぶようにしている

近年はおみくじを土産にする外国人も多いため、「おみくじとは何か」を裏面に入れ、より深く日本の文化を理解してもらえるように心がけている

超宗派の法話グランプリを企画した、須磨寺・小池陽人さん



ご自身もYouTubeにチャンネルを持ち、定期的に法話動画をアップしている小池さん。兵庫県で開催された会では見事優勝、それ以後法話を頼まれることも増えた



6月2日の法話グランプリ当日は満席。最後まで誰ひとりも席を立つことなく、7組の法話に聞き入っていた

優勝は兵庫県丹波篠山市にある曹洞宗長楽寺の安達瑞樹住職(前列右から4人目)。釈徹宗審査員長をはじめ参加者、審査員が最後は記念撮影

【株式会社シープロジェクト】

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町8-12 第3マイダビル 4階 TEL: 050-1326-3583
https://www.omikujii.jp.com

【真言宗須磨寺派 大本山須磨寺】

〒654-0416 兵庫県神戸市須磨区須磨寺町 4-6-8 TEL: 078-731-0416
http://www.sumadera.or.jp

日本一の木魚

【ほんいちのもくぎょ】



これまでどれだけの人に触れてきたのだろうか、木魚の表面は艶やかに輝く。横の柱には「木魚に片手でふれるだけでも過去の罪障が消滅します」と貼紙がある

織田家ゆかりの寺院の奥で触れば御利益ありとされる

名古屋千種区の閑静な住宅街の中心に、織田信長の父・信秀の菩提寺となっている桃巖寺がある。寺名も信秀の法名「桃巖道見大禪定門」から取られ、元は寺の北西にあった末森城近くに信長の弟・信行が建立したもの。正徳4(1714)年に現在の地へ移され、信秀の墓石も没後400年の昭和26(1951)年に境内へ移された。

古くから芸能関係者に信奉されてきたねむり弁天や鮮やかな緑色の名古屋大仏で知られるが、本堂の中ほ



名古屋大仏は昭和62(1987)年に建立され、坐高10m、台座を含めると15m

どにある木魚も地元では有名だ。直径約1m、樹齢1000年を超える楠から造られたもので、日本最大といわれている。

住宅街とは思えないほど緑豊かな境内の奥、本堂へ向かうと、巨大な木魚の姿が見える。かつてテレビの音楽番組を本堂から中継した際にアイドルの田原俊彦が木魚を叩いていた姿など、壁には数々の芸能関係者が木魚に触れている写真も飾られている。これほど多くの人が訪れるのは、それもこれも、この木魚に触れると過去の過ちが消滅するとされているからにほかならない。

大きさに目を奪われがちだが、信奉され続けているのは御利益ゆえ。本堂は自由に上がれるため、ふと訪れ、木魚に触れて帰る人もいる。表通りの喧噪を忘れるほどの静寂も魅力的な境内は、いつ訪れても心が穏やかになれる場所として、人々に愛され続けている。



とうがんじ 泉龍山桃巖寺 〒464-0819 愛知県名古屋千種区 四谷通2-16 TEL: 052-781-1427



浅草富士浅間神社は、明治6年より「三社様」と呼ばれて親しまれる浅草神社の兼務社として続いてきた。麦藁蛇は「お富士様」の縁日・植木市の際などに頒布され、地域の人たちが毎年多く持ち帰るという

人々をすぐそばでお守りする復活した水難よけの免符

富士山信仰がもつとも盛んだった江戸時代、参拝が叶わぬ庶民たちの間でその崇敬を目的とした「富士講」が形成され、全国各地に浅間神社が勧請された。浅草富士浅間神社もまた、その頃に富士山参拝を夢見る江戸庶民によって創建された遥拝所のひとつ。「昔は水から疫病が広まることが多々ありました。祭神・木花咲耶比売命は火を鎮める『水の神』とも、疫病除けの神」ともいわれており、水からの疫病除けを祈願する神社でもあったのです(浅草神社出仕大瀧氏)。

そんな中、駒込の喜八という百姓が夢のお告げを受けて麦藁で蛇を作ったところ、疫病除けや水あた



境内には氏子たちによって2016年に創建された、富士山参拝を再現する「富士塚」が。安産祈願で登る人も

り除けのご利益が広まり、霊験あらたかなものとして評判になった。「古来より水神である龍の使いとされてきた蛇もまた、水による疫病や水害などの災難から人々を守ってくれと信仰されてきたのです。そうしたつながりもあって、浅間神社でもいつの頃からか『麦藁蛇』を頒布するようになりました」。

頒布は昭和初期頃まで、毎年行われる植木市の風物詩として続いていたというが、戦後になると途絶えてしまった。しかし失われかけた風習や文化を守り、後世に継承していくことと平成12(2000)年に再現復活した。以降、授与所を開く5、6月の植木市と正月三が日に限り、頒布を行っている。

「麦藁蛇は、ご自宅に持ち帰って、水道の蛇口や水回りに祀っていたいただくものです。これからも皆様の日々の無事安泰をお守りできるよう、引き続きいでいきたいですね」

浅草神社、浅草富士浅間神社では6年前から夏詣を実施している。富士山の山開きとなる7月1日から1週間は限定御朱印も頒布され、麦藁蛇同様に人気がある



本堂の絵天井も美しく、役者など芸能に関する絵が描かれている

麦藁蛇

【むぎわらじゃ】

水の災難から人々を守る麦藁細工の蛇



宿泊料金には食事のほか、坐禅、写経・書道、護摩行が含まれている。外国人の利用者にはさまざまな体験が一度にできる点が喜ばれている



食事は動物性の食材を一切使用しない精進料理。胡麻豆腐の代わりにピーナッツ豆腐が用意されるほか、山芋と枝豆を漉した蒸し物など、料理の随所に工夫が光る。朝食は皮を剥いた蕎麦の実ともち麦の雑炊に、季節の山菜の炊き合わせや果物がつく



護摩堂の奥、本堂から続く形で客殿があり、その2階に2室、計6名が利用できる部屋がある。食事は客殿の広間を利用



かつての国分寺があった場所は約3万平米という広さ。歴史公園として国の史跡に指定され、自然豊かな環境が広がる。しかも最寄り駅からは10分ほど。公園の一角が現在の安芸国分寺。境内には雑木林があり、ここで採れる淡竹(はちく)が精進料理に使われることもある

テラハク
レポート



現在も7つの蔵が醸造を続けている西条町。蔵が集まる酒蔵通りへは線路を越えればすぐ、徒歩10分ほど

有瀬住職と奥様の聖明さんは幼馴染み。ご夫婦揃って話し好きで、仏教や地域の話などさまざまな話題に花が咲く



仏の素晴らしい教えを
一人でも多くの人に。
その入口として誕生

先進事例として 注目を集める宿坊

行政からの提案を受け
仏教に触れられる宿を開設

宿坊の新規開設には規制などさまざまなハードルがある。市街化調整区域なら、なおさらのこと。しかし行政と共に取り組むことでそれらをクリアし、開設した宿坊が今、先進事例として注目されている。

聖武天皇の時代に全国に建立された国分寺のひとつ、広島県の安芸国分寺で今年4月に開設された宿坊。第149代の有瀬崇光住職はかねてより仏の素晴らしい教えをどうすれば不特定多数の人にひとりでも多く知ってもらえるか、と考えていた。

ではないか、とも考えていた。住職のこのような思いが実現した宿坊は、行政の後押しもあり、また住職自身もDIYで参加するなどの結果、計画スタートから1年足らずの今年4月に開設。利用者は順調に伸びている。

仏教を広める場としての宿坊ではあるが、ここでは楽しみも多い。食事は有機や地産の野菜を用い、時には自然豊かな境内地に自生する山菜も取り入れる。また寺院の歴史や地域の話をして興味も持ってもらえた人には、夕食後に夜の境内地散策を提案することもある。来ていただきたいからには、お寺という空間だけで



真言宗御室派
安芸国分寺
〒739-0002
広島県東広島市西条町
吉行2064
TEL: 082-430-7763
<http://www.aki-kokubunji.com>

その入口として寺子屋を始め、次に宿坊も検討していたという。そこに東広島市の観光課から、設置の提案があった。

「お寺という聖域に身を置くことで何かを感じていただきたい、そしてお寺を身近に感じてほしい、さらに修行体験を通して心身の浄化を体感してもらいたい。そのために宿坊の開設を検討していました」と有瀬住職。宿坊を開設すれば日本人が日本を深く知ることができるようになり、また、外国人の訪問が増えることも考えられるため、彼らに日本の文化・伝統を知ってもらう場にもできる。そしてそこに国際交流も生まれるの

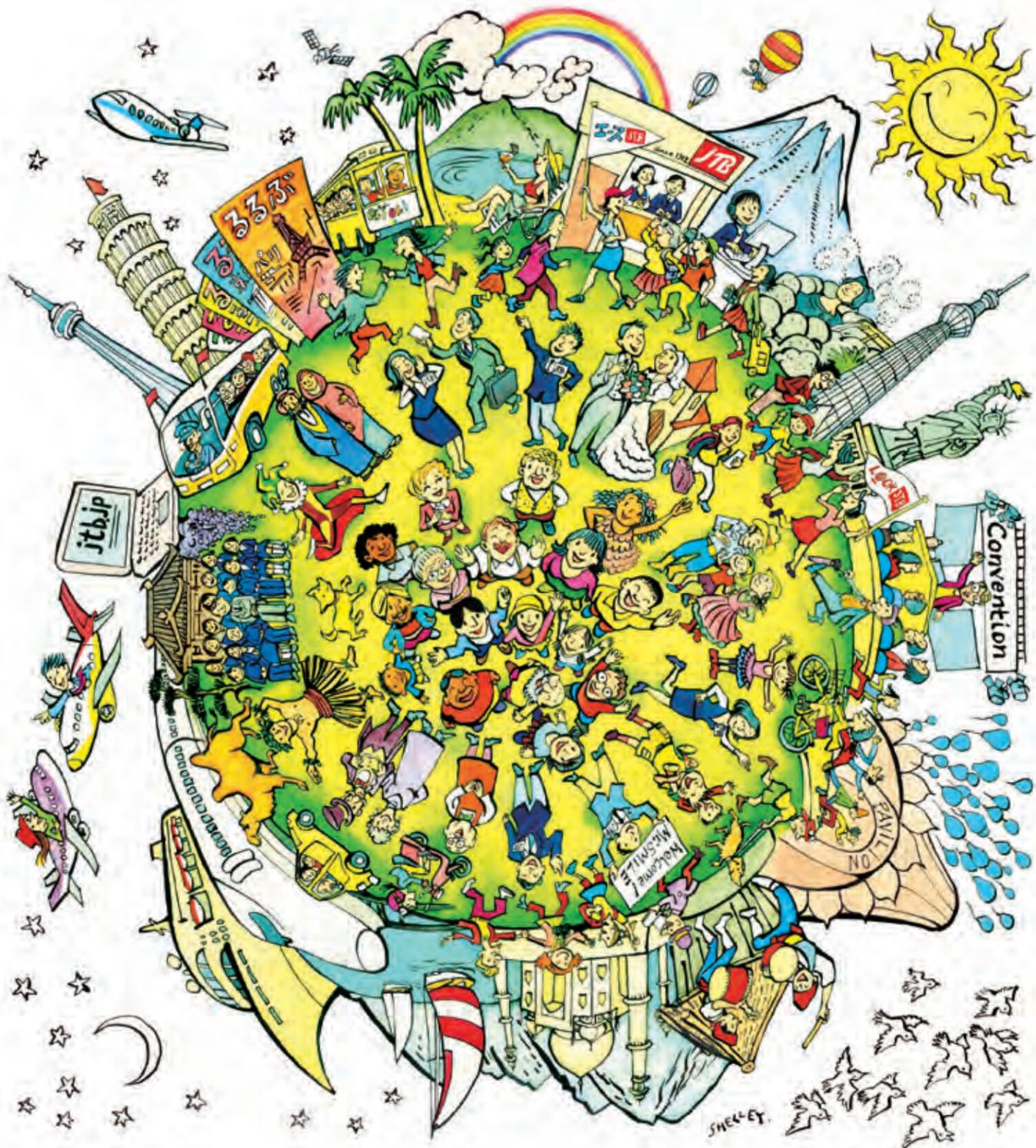
なく、地域ともつながってほしい、そう考えるからだ。

「ここは古くから多くの人の拠り所となってきた寺。だからこそ、集いの宿坊にしていきたいですね」
建物1階の広間は現在、僧侶の研鑽の場のみならず寺子屋や、地域の人たちにも利用してもらっている。今後は法事などのために帰省した人が利用できる場所にもしたい、と語る有瀬住職。酒造りの町・西条の酒蔵通りまで徒歩圏内で駅も近く、観光客の利用も期待できる。より多くの人にお寺と地域に足を運んでもらいたい、そのためのベースになれるよう、宿坊の増設も検討中だ。

宿泊で寺社と地域を元気にする
WEBサービス「テラハク」
<http://terahaku.jp>
TEL: 06-6356-2090 (運営: 株式会社 和空)



感動のそばに、いつも。



人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。



天津神明宮(16頁)の岡野禰宜(右)と鳥居横に設置されたサイクルラック。地域の活性化には今、寺社が主体となった動きが増えている

寺社Now

Vol.26

編集後記

かつて高齢化率日本一だった瀬戸内の島を劇的に活性化させているお寺&ジャム工房を訪ねた(14~15頁)。地域の価値や個性、人のつながりを最大限に活かし、雇用も生み出し、もはや産業となっている。夢と笑顔に溢れている。本気になれば地域は変わる。変えられる。(W)

行政からの提案で誕生した広島県東広島市の宿坊が先進的事例として注目されている(30頁)。仏教を広める場としての宿坊、その開設を行政が後押しするという取り組みは、これまでになかった展開。こういった事例は今後も増えると思われ、寺社振興の新たな道が見えた気がした。(H)

無料送付の継続希望

「寺社 Now」無料送付の継続をご希望の場合、[寺社名・氏名・住所・電話番号]をご記入のうえ、下記FAXまたはメールアドレス宛にお送りください。ご意見・ご感想もお待ちしております。



バックナンバーが
WEBでご覧いただけます

jisy-now.com

または [寺社NOW](#) [検索](#)

お問合せ

一般社団法人
全国寺社観光協会 本部事務局

TEL: 06-6360-9838 FAX: 06-6360-9848
e-mail: info@jisy-kk.jp

次号は
2019年9月発行の
予定です。

監修
一般社団法人 全日本寺社観光連盟

発行人
一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力
株式会社 glass

発行所
一般社団法人全国寺社観光協会事務局
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号
AXIS 南森町ビル11F
Tel: 06-6360-9838 Fax: 06-6360-9848

寺社 Now
第26号 令和元年7月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。発行人の許諾なしに複製(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載することは違法となります。



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動



JOCゴールドパートナー(損害保険)